

7 共同記者会見

■ 石原慎太郎 東京都知事

昨日から二日間に渡って、いわゆるサミットではなくて、C40 に参加している大都市の実務者と言いましょ
うか、専門家にお集まりいただいて非常に有益な会議を
持たたと思っております。開会式にも私申しましたけど、
昨年、前の C40 議長のリビングストン・ロンドン市長
(前ロンドン市長)に言われて、東京も是非、参加しろ
ということで、ニューヨークまで行って C40 の会議に
参加しましたが、率直に言って、何も得るところは無か



共同記者会見の様子

った。インスパイアされるものがありませんでした。つまり、危機感の共有は簡単ですけど、具体的に
どうやってそれを処するための実行に移すかは、ほとんど議題として出ませんでした。

ですから、この問題の現場を預かっている専門家に集まってもらって、具体的に何をどうするか、
どうすべきかっていう討論した上で、来年のソウルの総会に備えるべきではないかと。そうしない限り、
また一種の抽象論に終わるんじゃない意味がないと提唱しまして、この東京に皆様をお招きして、こ
の会議を持った訳です。その結果、非常にフルーツフルだったと思います。

その結果、13 項目の具体的な実行案について合意を得まして、参加の都市によっては、その必要あ
る所、無い所、それぞれ選択の余地はありますけれども、いずれにしる、その 13 項目をそれぞれの
都市が自分のニーズに応じて、解決・推進していく努力をしようということで、具体案についての共
同認識ができて、とにかく、事を進めていこうと、来年のソウルの大会までに、我々はここまでやっ
たぞという報告ができるように、具体的に物事をやっていこう、ということで同意を得ました。

これは本当はですね、来年のコペンハーゲンの、要するに世界の国家政府の会合で京都議定書を上
回る案について討論されるんでしょうけど、まあ、あんまりこれに対して私は期待できない。今年の
日本でのサミットの結果を見てもですね、世界の首脳なる人達にこの問題について正当な認識がある
か、危機感があるかってことはあまり信じられない。あの洞爺湖のサミットで、ある首脳が少なくと
も半歩は前進したと。昨年のバリ島の会議の体たらくを見ても、あれから今年に半歩しか出ないんだ
ったらこれ間に合いません、事がね。

ということでね、さっきトロントの市長さんにも話したんだけど、C40 の責任者達が出かけて行っ
てね、コペンハーゲンでとにかく、どういう結論が出るか知らんけど、その横でそれを促進するた
めの、なんて言うんでしょうかな、監視を含めた主張をすべきじゃないか。まあ、そのつもりでおりま
すけども。どうも、地方自治体は政府に気兼ねするところが多くて、これは本当に自分の立場・分際
を考えているからかもしれないけど、そんなもので遠慮する必要は全くない、また、してはならない
事態まで事が至っていると思います。

ということで、ソウルの大会の結果も踏まえて、来年
のコペンハーゲンの大会には、私達 C40 の代表が出向
いて世界の大都市の、明らかに各国の政府とは違う認識、
違う危機感というものを披瀝して、実際に都市はこれだ
けの仕事をしている、しからは国は、国としての責任で
何をすべきか、ということを主張しようと思っています。
有難うございました。



共同記者会見で発言する石原都知事

■ デビット・ミラー C40 議長（トロント市長）

まず、石原都知事を始め、この東京都の皆様がこの重要な会議を開催して下さったこと、心よりお礼申し上げます。

ご存知のように、この C40 というのは、世界の 40 の大都市のメンバーから成っております。そして、ここに住む人口を足し合わせると何億人にもなりますが、これら大都市が手を携えて、皆の共通した懸念である気候変動と戦おうという、そういう団体であります。また、オープニングの本会議でもご説明があったようにですけども、今回の会議で我々が学んだように、気候変動、これは世界の人々にとって深刻な脅威となっておりますが、少なくとも温室効果ガスの 75% が大都市で排出されています。そこを考えれば、大都市は、この気候変動の問題に対して大変重要な役割を担っております。気候変動に戦っていく、そしてまた、この温暖化のペースを遅らせるということにおいて、大変重要な役割を担っているのです。

また今回、世界中の東西南北の様々な多く都市からご参加いただきましたが、特に、ご参加いただいた私の同僚であるアディスアベバの市長、それからパリの副市長に対しても心よりお礼を申し上げたいと思います。

研究結果からも明らかであり、昨日もこれはお話があったところなんですけれども、気候変動を緩和していくためには、我々は今、もう行動を執らなくてはなりません。これは発表からでも明らかなんですけれども、都市はその都市の権限の中で、できることをもう既に、気候変動の戦いのために色々行っております。シアトルもしかり、シンガポールもそうです。私のトロント市でも、メイヤーズ・タワー・リニューアルと呼ばれる、エネルギー節減のために、様々なビルの後付け、つまり改修という形態により、色々な取組が行われています。パリ、シカゴ、東京、ソウルもしかりであります。こういった市の市長は、行動を執る市長として活動しており、ここにも重要性が見られます。

今回の会議の焦点はこの適応策でありましたけれども、我々は適応ということの他にも色々、市が気候変動と戦うために行っている作業、これをサポートする緩和策、こういったことも必要であり、それも重要であります。そういったことに関しては、今回、様々な力強いパワフルなアクション、行動が色々発表されました。

先程、石原都知事もおっしゃられましたように、来年ソウルで会議が開かれます。そこでは、こういった具体的な施策に関する結果を報告するということが行われますし、様々な専門家からの会議も開かれることとなります。特に企業の代表者なども参加し、その場でエネルギーの削減策なども話される、そのような予定になっております。

また、コペンハーゲンの市長とも協力いたしまして、この COP15 のプロセスにおいて C40 が我々としての非常に強いステイトメント、強い意思表示をしていくための作業、こういったことも行われています。これは何のためかと申し上げますと、国の政府が行っていく様々な活動の中で、我々、都市が今活動を行わなくてはならない、という重要性、気候変動に対して戦わなくてはならない、という重要性を明確に主張していくためであります。

最後になりましたが、都知事それから東京都の皆様、今回の素晴らしい会議を開催して下さったことにお礼を申し上げたいと思います。有難うございました。



共同記者会見で発言するミラーC40 議長